

慈雲

34号

2014/12

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



時韋提希
被幽閉已
愁憂憔悴

【『観経』の言葉】

時に韋提希、幽閉せられ
已りて、愁憂憔悴す。

ここからは「厭苦縁」という一段に入ります。韋提希夫人は、子である阿闍世王に殺されそうになりますが、二人の大臣の諫めによって死を免れます。その代わりに宮殿の奥深くに幽閉されます。善導大師は「死を免れたのだから喜んで良いはずなのになぜ憂えるのか」と自問自答されて、一つは、夫の頻婆娑羅に食べ物運ぶ人がいなくなるので、やがて死ぬことを憂い、二つ目は、自身がお釈迦さまやお弟子の教えを聞くことができなくなる。二つ目は、自分の命もやがて尽きることを愁うというのです。善導大師は、夫人が受けている苦しみをわが事として受け止めて傷歎しているのです。

今回は

能発一念喜愛心のうほついちねんきあいしん

よく一念喜愛の心を発すれば、

と読みます。

「能よく一念に喜愛の信心をおこせば」という意味です。少しずつ見ていきましよう。

「能」は能所の能で、する方・される方という「する方」ですから受け身でなくて能動的・積極的にということですが、

信心は人に起こされるものではなく、自らの責任で起こすものなのです。

「一念」とは、仏さまが私たち衆生を救おうと誓われた本願を信じる心をひとたび自分の胸に起した時という意味です。

「ひとおもい」とか「ひととき」のことであり、きわめて短い時間を指します。

経典にはいろいろな表現でそのようなごく短い時間を表しています。たとえば、

「弾指の頃たんじ あいだ」といって指をパチンと弾く

一瞬、また「屈伸臂頃くっしんびきょう」といって、ひじ

を曲げて伸ばす間の短い時間などです。

いずれも一秒よりも短い時間でどれほど優秀な時計でも計ることのできない一瞬です。内面的な時間の一瞬といってよいでしょう。

またそのような信心を「喜び愛する心」であると言われています。

※

さて、一応は以上のような意味ですが、仏教には再応さいおうといって、もう一度よくその背景を探ってみることが大切とされています。

一応の意味は今申したように、「私がよく本願を信じる喜愛の心を一念ひとおもいに発す」ということです。私の方から阿弥陀仏の本願を信じる心を起すという事ですが、再応（内面）の意味は、仏さまからの働きかけが先にあるのです。数え切れないほどの昔より私ひとりのために本願を建て、呼びかけてくださっていたことを、今はじめていただいたというのが「一念」です。それは私の胸に起こったものですが私が起こしたのではなく、仏さまの呼び声によって私の閉じていた心が開かれては

じめて聞こえたということですが。

それは喜び愛樂あいぎょう以外の何ものでもありません。仏さまから私たちへの愛樂です。聞こえてはじめて私の心が閉じていたことを知るのです。

煩惱の生活に明け暮れている私のことを倦うむことなく照らし続けてくださっていることを思うと、申しわけなさとなり、がたさを同時に感じます。

煩惱にまなこさえられて

撰取の光明みざれども

大悲ものう（倦）きことなくて

つねにわが身をてらすなり

という和讃があります。私たちの眼まなこは煩惱によって障さえられていますから撰取るといふ阿弥陀仏の光明を見ることがありません。しかし仏さまの大悲はもう倦あきたといわれず、常に私の身を照らしてくださっているという意味です。煩惱があるままの私ですが、つねに照らされていることを仰ぎつつ、いよいよ聞法の道を歩んで行かなければなりません。

【易行風】

「お寺とは？」「真宗とは？」

研修会等でよく題材にされますが、皆さんはどのようにお考えですか。

私は数年前まで、お寺とは敷居の高い建物で、親の使いで行く所。お寺との付き合いは「家」がするもので、親が死ぬまでは自分とは関係の無いものだと思っていました。

真宗に至っては「何、それ？」で、当然のごとく親鸞聖人のことも知らず、東本願寺はザリガニ釣りに行った所でしかありませんでした。

そのような私が聞法を始め、「お寺とは？」「真宗とは？」ということを考えるようになりました。

正直に言ってまだ答えは見つかっていませんが、お寺の敷居を低くするにはどうすれば良いかと言う点は常に思っています。

お寺の敷居が高いのは何故でしょうか？

自分とは関係ないものだと思うことが第一の理由ではないでしょうか。

私の場合、お寺は自分とは関係の無いものでしたが、親の代理でお寺に何う頻度が増えて行き、その中でお寺とは関係の無いと思われるコンピュータの知識を必要とされているうちに、自然と敷居が低くなって行つたと思います。不思議なもので、敷居が低くなると自分から関係を深くし、生活の中にお寺が溶け込んできました。

今、皆さんはどうでしょうか？

お寺との関わりは千差万別ですが、昔は地域の中心にお寺があり、生活の中にお寺があつたのではないのでしょうか。私が思うに、お寺とは葬儀のためだけのものではなく、地域の集団のための場ではないでしょうか。

真宗には他の仏教と異なる点が多くありますが、中でも私が良いと思うのは、「戒名」ではなく「法名」である点です。

戒律を守るために頂いた名前が戒名で、仏法を学ぶために頂いた名前が法名です。私のような者は戒律を守る事は到底できないと思いますが、間違いながらも学び進んで行く事はできると思います。

人間は間違いながら学び進んで行く、そしてそれは、決して終わることが無いと思います。終わることが無いのは一見苦しみが続くように思いますが、その時の時の状況に応じて新たな事を学び対処して行くことは、その時の自分自身を見つける事で、これは幸いな事だと思います。生きていく限り多くの苦しみ・悲しみに出くわすでしょうがその時の自分自身を見つける事ができれば、対応する方法が見つかると思います。

前回の易行の風でも書きましたが、私は今、聞く事の重要性を考えています。お寺は多くの事を聞く事ができる集団のための場で、真宗は聞く事を大切に教えただと思います。

また、私は「理想」と「現実」の間（釣り合ったところ）に「真実」が有ると思っています。

ですから、皆さんと共にお寺に集い、「理想」と「現実」について聞き学んで行き、「真実」を探したいと思っています。

【お磨きのお知らせ】

お正月前の仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

十二月十八日（木）午前九時より

~~~~~

【同朋の集いのお知らせ】

真宗大谷派京都教区山城第一組主催の第六十八回同朋の集いが開催されます。

今回はオペラ歌手の花月 真かけつ まことさんをお

迎えし念仏コンサートが行われます。お時間が有りましたら、どうぞお越し下さい。

日時 平成二十七年一月二十四日（土）

開場 午後一時半

開宴 午後二時

場所 大谷高校講堂

※講堂は二足制となっておりますので、

上履きをご持参下さい。

入場料は無料です。

詳しくは住職にお尋ね下さい。

~~~~~

【編集後記】

師走となり慌ただしい日々ですが、皆様如何お過ごしでしょうか。

今年最後の慈雲をお届けします。

ニュースでは四国で大雪が降り、多くの方々が被害に合われているようです。

四国は暖かいイメージばかりで、大雪の想像がつかず、驚いています。京都も年末年始大雪になるのでしょうか。

今年には災害の多い年だったような気がします。幸いにも私の知り合いに被害は無くほつとしています。皆様方、お知り合いの方々は大丈夫だったでしょうか。

来年は平穏な年であると良いのですが、話は変わりますが、先日、瑞蓮寺同朋の会で東本願寺の報恩講に参拝いたしました。

ご年配の方々からは昔は凄く数の

方々が各地からお見えになり賑わっていたが、今は…とお聞きしますが、今

も各地から多数の方々も参拝されており、たいそうな賑わいで、現代においても信心は受け継がれているのだと思いました。

瑞蓮寺では、同朋の会で色々な企画を考えております。是非ともご参加頂き、

ご門徒間の交流を深めて頂けたらと思います。詳細は決まり次第お知らせ致します。

今年も残りわずかですが、ご自愛頂き

来年もお会い出来ること願います。

お便り、ご意見、イラスト、写真等、お待ちしております。

長塩浩史

~~~~~

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirenji.net/>